

## 人を対象とする医学系研究に関する情報公開文書

この研究の詳細についてお知りになりたい方は、下欄の問い合わせ担当者まで直接お問い合わせください。

なお、この研究の研究対象者に該当すると思われる方の中で、ご自身の試料（血液など）や診療情報（カルテの情報）をこの研究に使ってほしくないと思われた場合にも、下欄の問い合わせ担当者までその旨をご連絡下さい。

試料・情報の利用 目的及び利用方 法	<p>研究の名称 間質性肺炎および間質性肺炎急性増悪における新規バイオマーカーの検討</p> <p>研究の対象 1980年1月以降に当院において診断した間質性肺炎および間質性肺炎急性増悪の患者</p> <p>研究の目的 間質性肺炎は肺の線維化が進行する予後不良の疾患です。また、どんな間質性肺炎でも急性増悪を合併しますが、極めて難治的病態であり、その死亡率は50～70%と高値です。また、そのメカニズムも十分に解明されていません。</p> <p>間質性肺炎のバイオマーカーとしては、血清 KL-6 や SP-D などの有用性が報告されていますが、診断精度や予後予測能としては十分なマーカーとは言えません。特に診断の遅れはステロイドを初めとした早期の治療開始を遅らせてしまうため、救命率の低下と直結しています。従いまして、より優れた新規バイオマーカーの発見が急務です。</p> <p>本研究では、間質性肺炎あるいは急性増悪の診断時、治療開始後などに、血清あるいは気管支肺泡洗浄液を用いて、好中球由来の好中球細胞外トラップ(NETs)や好中球ゼラチナーゼ結合性リポカリン(NGAL)およびカルシウム結合蛋白(S100A8/A9)、血管内皮細胞由来のアンジオポエチン、内因性カンナビノイドであるアナンダマイドと2-アラキドニールグリセロール(2-AG)、脂肪細胞から産生されるアディポネクチン、レプチンなどの濃度を評価し、各種検査項目や予後と比較検討します。これら新規のバイオマーカーが正確な診断や治療反応性、予後と関連するようであれば、今後の治療成績の改善に繋がるだけでなく、新たな治療のターゲットとなる可能性もあります。</p>
--------------------------	---

人を対象とする医学系研究に関する情報公開文書

	<p>研究の期間</p> <p>2018年9月から2023年8月まで</p> <p>他の機関に提供する場合には、その方法</p> <p>この研究では外部へ試料・情報を提供しません。</p>
<p>利用し、又は提供する試料・情報の項目</p>	<p>研究に使用する試料・情報：</p> <p>情報：病歴、治療歴、各種検査成績、胸部CT画像、外科的肺生検組織 等</p> <p>試料：血液および気管支肺胞洗浄液（残余検体）、実施していれば外科的肺生検組織 等</p>
<p>利用する者の範囲</p>	<p>共同研究機関の名称及び研究責任者</p> <p>本研究は浜松医科大学のみで行います</p>
<p>試料・情報の管理について責任を有する者の氏名又は名称</p>	<p>研究責任者</p> <p>浜松医科大学 内科学第2講座 教授 須田隆文</p>
<p>試料・情報の利用又は他の研究機関への提供の停止（受付方法含む）</p>	<p>あなたの試料または情報を研究に使用することを望まない場合には、問い合わせ先まで連絡をいただければ、いつでも使用や提供を停止することができます。連絡方法は、問い合わせ先に記載のある電話もしくはメールでお願いします。</p>
<p>資料の入手または閲覧</p>	<p>この臨床研究の計画や方法については、あなたのご希望に応じて資料の要求または閲覧ができます。あなたがご自分の研究結果を知りたいと希望される場合は、研究担当者にごその旨をお伝えいただければ、他の研究対象者に不利益が及ばない範囲内で、あなた自身にあなたの結果をお伝えします。希望された資料が他の研究対象者の個人情報の場合には、資料の提供または閲覧はできません。</p>
<p>情報の開示</p>	<p>あなたご自身が研究の概要や結果などの情報の開示を希望される場合は、他の参加者に不利益が及ばない範囲内で、原則的に結果を開示いたします。しかし、情報の開示を希望されない場合は、開示いたしません。</p> <p>また、本研究の参加者以外の方が情報の開示を希望する場</p>

人を対象とする医学系研究に関する情報公開文書

	合は、原則的に結果を開示致しません。
問い合わせ先	〒431-3192 浜松市東区半田山一丁目 20 番 1 号 浜松医科大学医学部附属病院 診療科：第二内科（呼吸器内科） 保健管理センター 担当者：榎本紀之 TEL：053-435-2263 E-mail：norieno@hama-med.ac.jp